

宇都宮市立横川西小学校 第4学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の宿題をしている」の肯定率は98.7%で市県の平均を上回っている。自分のためになっていると考え取り組んでいるようである。学習に対して、「自分から取り組んでいる」、「授業を集中して受けている」という項目の肯定率も高い。

○「勉強していておもしろい、楽しいと思うことがある」の肯定率は88.2%で、「勉強していてふしぎだな、なぜだろうと覚えることがある」の肯定率は85.5%でいずれも市県の平均を大きく上回っており、学習に興味・関心を持って前向きに取り組んでいる様子が伺える。今後も、児童が興味・関心を持って楽しく学習できるように、授業を工夫していきたい。

○「先生は学習のことについてほめてくれる」の肯定率は88.2%と市県の平均を大きく上回っている。ほめることで児童のよさを伸ばしていけるような指導を今後も継続していきたい。

●家庭での学習に関しては、「予習・復習をしている」、「テストで間違えた問題について勉強する」、「同じ時刻に取り組む」などの肯定率が低い。特に「自分で計画を立て勉強に取り組んでいる」という児童の割合が低い。学習内容の定着のためにも家庭学習、自主学習の取り組みをさらに習慣化できるよう支援を継続していきたい。

●学級での話し合い活動やグループでの話し合い活動を積極的に取り入れ、自分の意見を上げたり、友だちの意見を聞いたりする機会を今までより一層増やし、苦手意識を取り除いていきたい。

●授業でめあてを明示し、学習内容を振り返る活動を取り入れる。また、自分の考えをノートに書く時間も確保していきたい。

●「毎日朝食を食べている」「食事のとき好き嫌いをしない」という項目の肯定率は学力調査の正答率の低い層で低くなっている傾向がみられ、正答率の高い層との差は20ポイントを下回っている。日常生活、食生活の見直しについても啓発していきたい。